

## 5 月の天候の特徴

### 1 5月の気象

#### (1) 気象メモ

「風薫る五月」といわれるように気温も暖くなり、さわやかなイメージをもつ5月ですが、でも油断は禁物。5月でも恐ろしい自然災害が発生することがあります。この時期の日本は、移動性高気圧に覆われて晴れることが多いですが、低気圧が発達しながら日本付近を通過し大荒れの天気となることがあります。

特に5月に現れ、急激に発達する低気圧を「メイストーム」(ワンポイントメモ参照)と呼ぶことがあります。また、上空に寒気(冷たい空気)が入ることもあります。このときに晴れて地表付近の気温が上がると、大気の状態が不安定になり、広い範囲で雷雲が発達して、局地的に激しい雷とともにひょうが降ることもありますので注意が必要です。また、晴れた朝には放射冷却で遅霜のおそれもありますので山間部などでは注意が必要です。

#### (2) 愛媛県における5月の気象災害

右表は、気象庁の統計による昭和20(1945)年～平成18(2006)年における愛媛県内で発生した災害を原因別に回数表にしたものです。これをみると、一番多い災害は濃霧による海上・陸上視程不良害、次いで大雨・強雨による山がけ崩れ等となっています。これらのほかでは、少雨、ひょう、霜、乾燥(林野火災)、寡照各2回、強風、雷各1回となっています。特に農作物の関係では、ひょう・霜・寡照などによる災害が発生しています。

ひょう害では、平成8(1996)年5月22日宇和町、八幡浜市、北条市など南予や中予で1センチ大のひょうが降り、たばこ・きゅうり・なす・伊予柑などの農作物に被害が発生し、被害額は5億6,800万円にものぼっています。

霜害では、平成3(1991)年5月4日伊予三島市や宇摩郡新宮村で一番茶の新葉が茶褐色になったり、上浮穴郡では桑の新葉が枯れるなどの被害が発生しています。

愛媛県内における5月の原因別  
災害回数表

(統計期間：1945～2006年)

原因	回数
大雨・強雨	15
霧	24
少雨	2
ひょう	2
霜	2
乾燥	2
寡照	2
強風	1
雷	1
合計	51

注：大雨と濃霧が共存の場合大雨でカウント

### 2 気象用語の解説(10年ぶりに「予報用語」を改正)

気象庁では、天気予報や気象情報、解説等で用いている予報用語について、平成8年以来約10年ぶりに全面的な見直しを行い、4月1日から利用をはじめました(但し、時間帯や地域に関する一部の用語については、情報システムの変更を伴うことから、半年程度の準備期間を設けた上で実施するものがあります)。

今回の改正では、「予報用語」として収録、使用している約1,200語の用語すべてについて見直しを行い、約130語の説明を修正し、新たに約40語を加えました。修正、追加等を行った主な用語は以下の通りです。今後、個々の予報用語について解説していきます。

**時間帯に関する用語(修正)**【(注)は半年程度準備期間をおいて改正を行う用語】(次頁参照)

- ・00時～03時：「午前3時頃まで」を「未明」に。(注)
- ・06時～09時：「朝のうち」を「朝」に。
- ・18時～21時：「宵のうち」を「夜のはじめ頃」に。(注)

**新たに加えた用語**

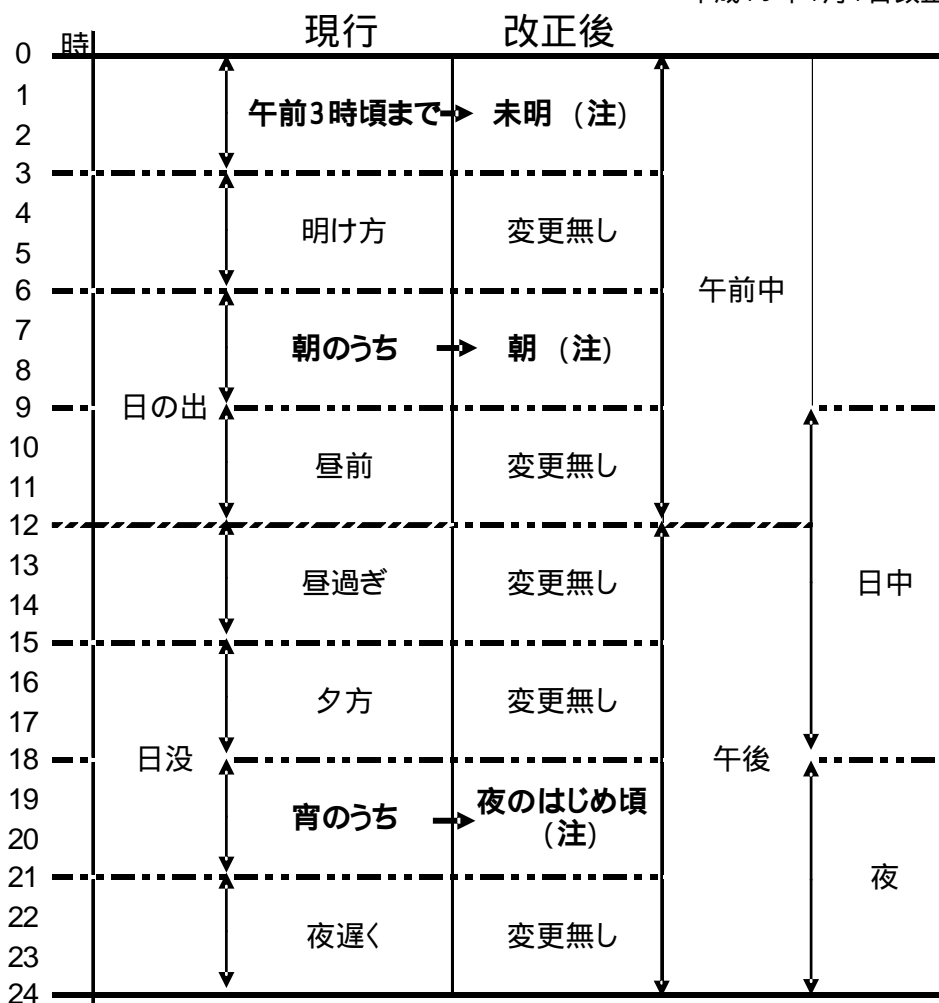
「藤田スケール」(竜巻等の規模を表す尺度)、「熱中症」(高温に対する注意・警戒)、「猛暑日」(日最高気温が35以上の日)

### 3 ワンポイントメモ＝「メイストーム(Maystorm)」

4月後半から5月頃にかけて発生する嵐のような気象現象をメイストームと呼びます。日本海や北日本方面で低気圧が台風並に急速に発達し、広い範囲にわたって天気が急激に変化します。強風となり、海や山は大荒れとなるため、登山及び船舶などの交通機関、海釣りやウィンドサーフィン等のレジャーには、強風や高波等に十分な注意が必要です。

# 予報用語に使う時間細分図

平成19年4月1日改正



注:「未明」、「朝」、「夜のはじめ頃」については、半年程度の準備期間をにおいて改正

## 1日の時間細分で上の細分図以外で用いられる用語

夜明け	日の出前の空が薄明るくなる頃
早朝	一般の人が活動を始める前
昼頃	正午の前後それぞれ1時間を合わせた2時間くらい
朝晩	午前0時頃から午前9時頃までと18時頃から24時頃まで
朝夕	午前0時頃から午前9時頃までと15時頃から18時頃まで
日中	午前9時頃から18時頃まで

## 1日の時間細分で今回使用しなくなった用語

現行	廃止理由	現行	廃止理由
午前3時頃まで	「未明」に変更	夜間	夜を使用
夜明け前	明け方を使用	夜更けて	対象時間が不明確
明け方前	「夜明け前」と同じ	夜半	日常的に使用されなくなった
昼	単独では使用しない	夜半頃	日常的に使用されなくなった
午後から夕方にかけて	昼過ぎから夕方にかけて	夜半前	夜遅くを使用
夕刻	夕方を使用	夜半過ぎ	午前0時から午前2時頃まで
夕方前	夕方を使用	晩	単独では使用しない
夕方過ぎ	夜のはじめ頃を使用	一晩中	夜通しを使用
宵のうち	夜のはじめ頃を使用		

「予報用語の改正」についての詳細は、気象庁のホームページをごらん下さい。  
[http://www.jma.go.jp/jma/press/0703/29b/yougo\\_kaisei.html](http://www.jma.go.jp/jma/press/0703/29b/yougo_kaisei.html)